

# 2024年3月期第1四半期 業績概要

窪田 顕文

アンリツ株式会社  
取締役 専務執行役員 CFO

2023年7月28日



東証 プライム  
証券コード：6754  
<https://www.anritsu.com>

(ノート部記載なし)

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

(ノート部記載なし)

## 目 次

1. 事業概要
2. 2024年3月期第1四半期 連結決算概要
3. 2024年3月期 通期業績予想（連結）
4. 当社の取り組みについて

(ノート部記載なし)

1. 事業概要

通信計測事業

ネットワーク社会の進化・発展



- ◆ モバイル市場：5G、5G活用
- ◆ ネットワーク・インフラ市場：データセンター、光NW、無線NW
- ◆ エレクトロニクス市場：基地局建設保守、電子部品、無線設備

PQA事業

食の安全・安心



- ◆ X線検査機
- ◆ 金属検出機
- ◆ 重量選別機

環境計測事業



- ◆ EV・バッテリー向け試験
- ◆ ローカル5G、プライベート5G
- ◆ 道路、ダム・河川等のモニタリング

その他



- ◆ センシング  
& デバイス
- ◆ その他

(セグメント別売上比率)

2023年3月期 実績（連結）：1,109億円

|          |                 |              |         |         |        |
|----------|-----------------|--------------|---------|---------|--------|
| 通信計測 66% |                 |              | PQA 22% | 環境計測 6% | その他 6% |
| モバイル 51% | ネットワーク・インフラ 30% | エレクトロニクス 19% |         |         |        |

2024年3月期 1Q実績（連結）：227億円

|          |                 |              |         |         |        |
|----------|-----------------|--------------|---------|---------|--------|
| 通信計測 67% |                 |              | PQA 24% | 環境計測 3% | その他 6% |
| モバイル 43% | ネットワーク・インフラ 37% | エレクトロニクス 20% |         |         |        |

(通信計測事業 地域別売上比率)

2023年3月期 実績

|        |          |        |          |
|--------|----------|--------|----------|
| 日本 15% | アジア他 43% | 米州 24% | EMEA 18% |
|--------|----------|--------|----------|

2024年3月期 1Q実績

|        |          |        |          |
|--------|----------|--------|----------|
| 日本 14% | アジア他 41% | 米州 25% | EMEA 20% |
|--------|----------|--------|----------|

PQA：Products Quality Assurance

(ノート部記載なし)

## 2-1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

▶ 前年同期比受注は23%減、売上は13%減、営業利益は△1億円、当期利益は2億円

(単位：億円)

| 国際会計基準(IFRS) | 前第1四半期<br>連結会計期間<br>(4-6月)実績 | 当第1四半期<br>連結会計期間<br>(4-6月)実績 | 前年同期比<br>増減額 | 前年同期比<br>増減率(%) |
|--------------|------------------------------|------------------------------|--------------|-----------------|
| 受注高          | 298                          | 230                          | △ 68         | △23%            |
| 売上高          | 262                          | 227                          | △ 35         | △13%            |
| 営業利益         | 30                           | △1                           | △ 31         | -               |
| 税引前利益        | 39                           | 4                            | △ 35         | △89%            |
| 当期利益         | 29                           | 2                            | △ 27         | △92%            |
| 当期包括利益       | 67                           | 34                           | △ 33         | △49%            |

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

グループ全体の受注高は前年同期比23%減の230億円、売上高は前年同期比13%減の227億円となりました。営業利益は1億円の損失、当期利益は前年同期比92%減の2億円となりました。

## 2-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

▶ 通信計測は前年同期比減収減益、PQAは増収増益、環境計測は減収増益

(単位: 億円)

| 国際会計基準(IFRS) |      | 前第1四半期<br>連結会計期間<br>(4-6月)実績 | 当第1四半期<br>連結会計期間<br>(4-6月)実績 | 前年同期比<br>増減額 | 前年同期比<br>増減率(%) |
|--------------|------|------------------------------|------------------------------|--------------|-----------------|
| 通信計測         | 売上高  | 186                          | 152                          | △ 34         | △ 18%           |
|              | 営業利益 | 34                           | 4                            | △ 30         | △ 88%           |
| PQA          | 売上高  | 51                           | 54                           | 3            | 6%              |
|              | 営業利益 | △ 1                          | 0                            | 1            | -               |
| 環境計測         | 売上高  | 9                            | 8                            | △ 1          | △ 6%            |
|              | 営業利益 | △ 3                          | △ 3                          | 0            | -               |
| その他          | 売上高  | 16                           | 14                           | △ 2          | △ 17%           |
|              | 営業利益 | 2                            | 1                            | △ 1          | △ 72%           |
| 調整額          | 営業利益 | △ 2                          | △ 3                          | △ 1          | -               |
| 合計           | 売上高  | 262                          | 227                          | △ 35         | △ 13%           |
|              | 営業利益 | 30                           | △ 1                          | △ 31         | -               |

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

PQA : Products Quality Assurance

通信計測事業は、世界的な5Gスマートフォンの開発投資需要の減少によるモバイル市場の成長鈍化により、売上高は前年同期比18%減の152億円、営業利益は前年同期比88%減の4億円（営業利益率2.8%）の減収減益となりました。

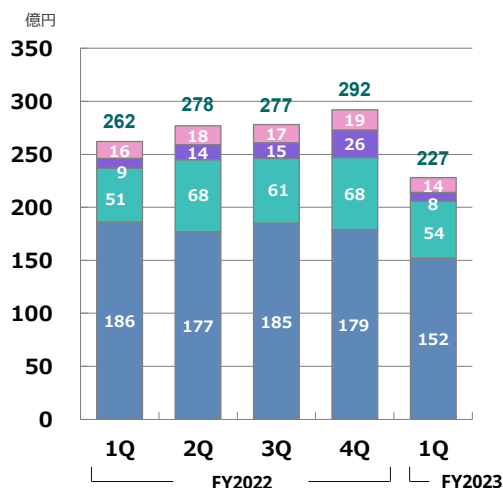
PQA事業は、食品市場の品質保証プロセスの自動化、省人化を目的とした設備投資需要が堅調に推移し、売上高は前年同期比6%増の54億円、営業利益は前年同期比1億円増（営業利益率0.4%）の増収増益となりました。

環境計測事業は、国内においてEV・バッテリー向け試験需要が堅調に推移し、業績としては売上高は8億円、営業利益△3億円と前年同期並みとなりました。

その他の事業では、売上高は前年同期比17%減の14億円、営業利益は前年同期比72%減の1億円（営業利益率5.0%）の減収減益となりました。

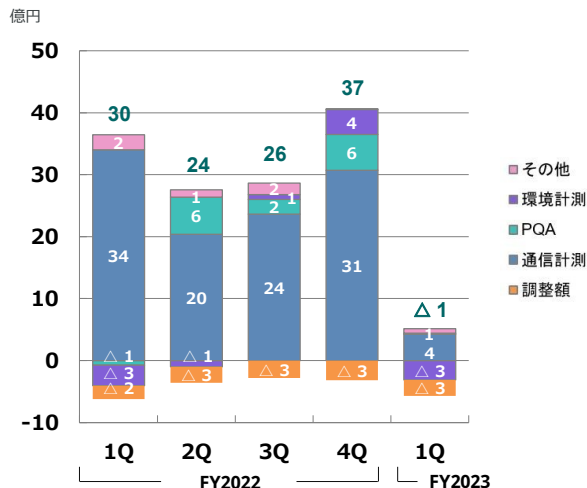
## 2-3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 1Q(4-6月)営業利益率：通信計測 2.8%、PQA 0.4%



売上高

(注) 値はそれぞれで四捨五入



営業利益

第1四半期の連結及び各事業セグメントの営業利益、営業利益率は下記のとおりです。

|      |                 |
|------|-----------------|
| 連結   | △1億円            |
| 通信計測 | 4億円（営業利益率：2.8%） |
| PQA  | 0億円（営業利益率：0.4%） |
| 環境計測 | △3億円            |

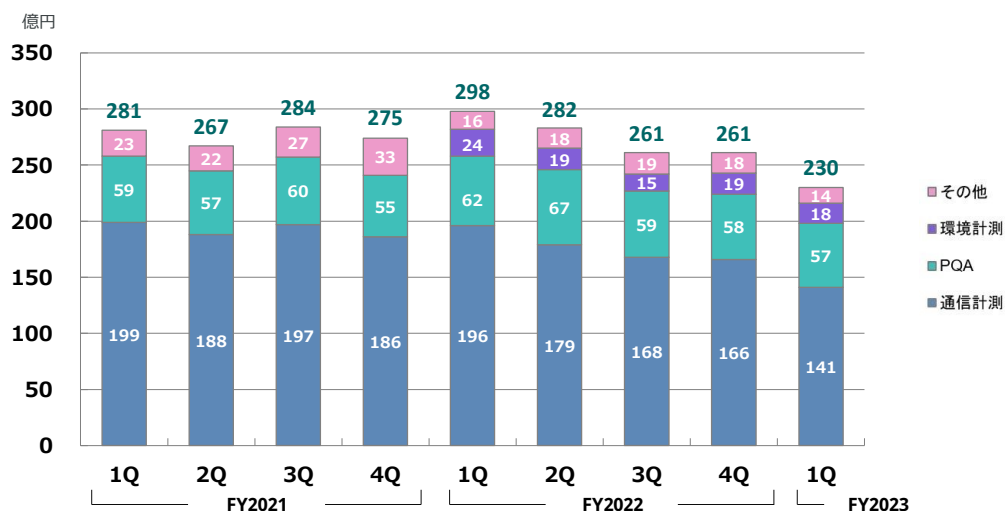
2-4. 事業別営業概況

| セグメント      2024年3月期（4-6月）の状況                          |                                               |
|-------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| ➡ 通信計測：世界的な物価、人件費上昇等で、顧客は設備投資に慎重<br>固定ネットワークの高速化需要は順調 |                                               |
| モバイル                                                  | アメリカと台湾にて5G開発市場の投資が再開の動き                      |
| ネットワークインフラ                                            | 欧米中心に固定ネットワークの高速化への投資は順調に推移                   |
| エレクトロニクス                                              | 6G基礎研究がスタート                                   |
| アジア他・日本                                               | インドで5Gスマホ開発拠点の立ち上がり                           |
| アメリカ                                                  | 固定ネットワーク高速化への投資は順調<br>生成AI等の好調によりデータセンター市場が活況 |
| ➡ PQA：欧米の食肉市場が堅調。自動化、省人化の動きが活発化                       |                                               |
| ➡ 環境計測：EV・バッテリー向け試験装置の需要が堅調                           |                                               |

(ノート部記載なし)

## 2-5. 受注高推移

通信計測 前年同期比28%減、PQA 前年同期比7%減、環境計測 前年同期比27%減

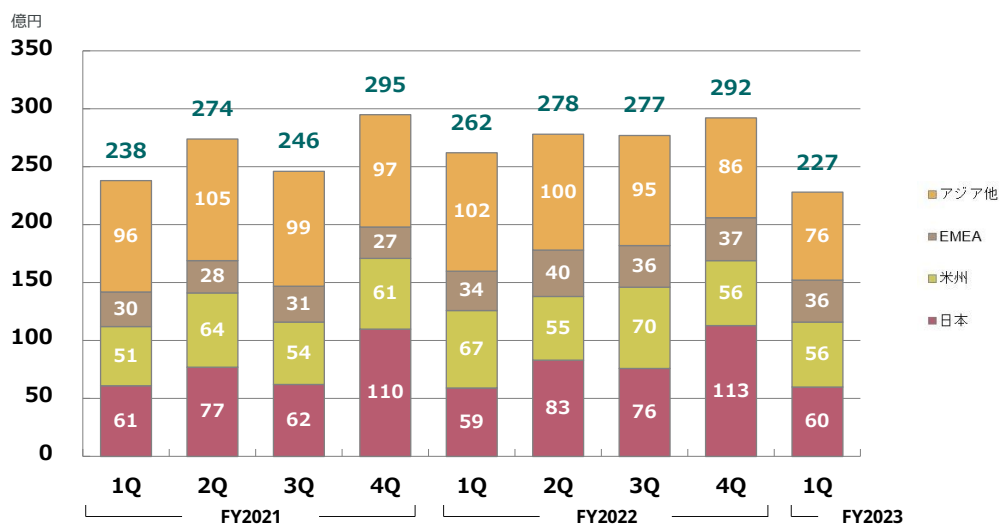


(注) 値はそれぞれで四捨五入

通信計測事業の第1四半期の受注高は、前年同期比28%減の141億円となりました。PQA事業の第1四半期の受注高は、前年同期比7%減の57億円となりました。環境計測事業の第1四半期の受注高は、前年同期比27%減の18億円となりました。

なお、受注残高はグループ全体で372億円（前年同期比1%減）、通信計測事業では235億円（同1%減）、PQA事業では71億円（同12%減）、環境計測事業では49億円（同15%増）となりました。

## 2-6. 地域別売上高推移



(注) 値はそれぞれで四捨五入

(ノート部記載なし)

## 2-7. キャッシュフロー

▶ 営業CFマージン率 10.1%

### FY2023 (4-6月)

①営業CF： 23億円

②投資CF： △11億円

③財務CF： △30億円

### フリーキャッシュフロー

(①+②)： 12億円

### 現金同等物期末残高

363億円

### 有利子負債高

70億円

(注) 値はそれぞれで四捨五入

### 内訳 (単位：億円)

|       |     |      |     |     |
|-------|-----|------|-----|-----|
| その他   | 11  |      |     |     |
| 売上債権  | 23  |      |     |     |
| 減価償却  | 15  |      |     |     |
| 税引前利益 | 4   |      |     |     |
| 棚卸資産  | △13 | 設備投資 | △8  |     |
| 税金    | △4  | その他  | △3  |     |
| 仕入債務  | △13 |      | 配当金 | △26 |
|       |     |      | その他 | △4  |

営業CF 23

投資CF △11

財務CF △30

営業キャッシュフローは、23億円の資金獲得となりました。

投資キャッシュフローは、11億円の資金支出となりました。

その結果、フリー・キャッシュフローは12億円の資金獲得となりました。

財務キャッシュフローは、30億円の資金支出となりました。主なものは、配当金の支払い26億円（期末配当分 1株20円）です。

以上の結果、現金同等物期末残高は、期首残高より5億円減少の363億円となりました。

3. 2024年3月期 通期業績予想（連結）

4月28日公表値からの変更なし

|       |      | (単位：億円) |         |              |                 |
|-------|------|---------|---------|--------------|-----------------|
|       |      | 2023/3期 | 2024/3期 |              |                 |
|       |      | 前期実績    | 通期予想    | 前年同期比<br>増減額 | 前年同期比<br>増減率(%) |
| 売上高   |      | 1,109   | 1,155   | 46           | 4%              |
| 営業利益  |      | 117     | 137     | 20           | 17%             |
| 税引前利益 |      | 124     | 137     | 13           | 10%             |
| 当期利益  |      | 93      | 100     | 7            | 8%              |
| 通信計測  | 売上高  | 728     | 740     | 12           | 2%              |
|       | 営業利益 | 109     | 120     | 11           | 10%             |
| PQA   | 売上高  | 248     | 260     | 12           | 5%              |
|       | 営業利益 | 13      | 16      | 3            | 20%             |
| 環境計測  | 売上高  | 64      | 90      | 26           | 41%             |
|       | 営業利益 | 1       | 6       | 5            | -               |
| その他   | 売上高  | 69      | 65      | △ 4          | △ 6%            |
|       | 営業利益 | 6       | 5       | △ 1          | △ 11%           |
| 調整額   |      | △ 11    | △ 10    | 1            | -               |

(参考) FY22 為替レート : 1米ドル135円、1ユーロ141円  
FY23 想定為替レート : 1米ドル130円、1ユーロ140円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前期比増減額を除く）

2024年3月期の通期業績の見通しは4月28日の公表値から変更はありません。

## 4.当社の取り組みについて

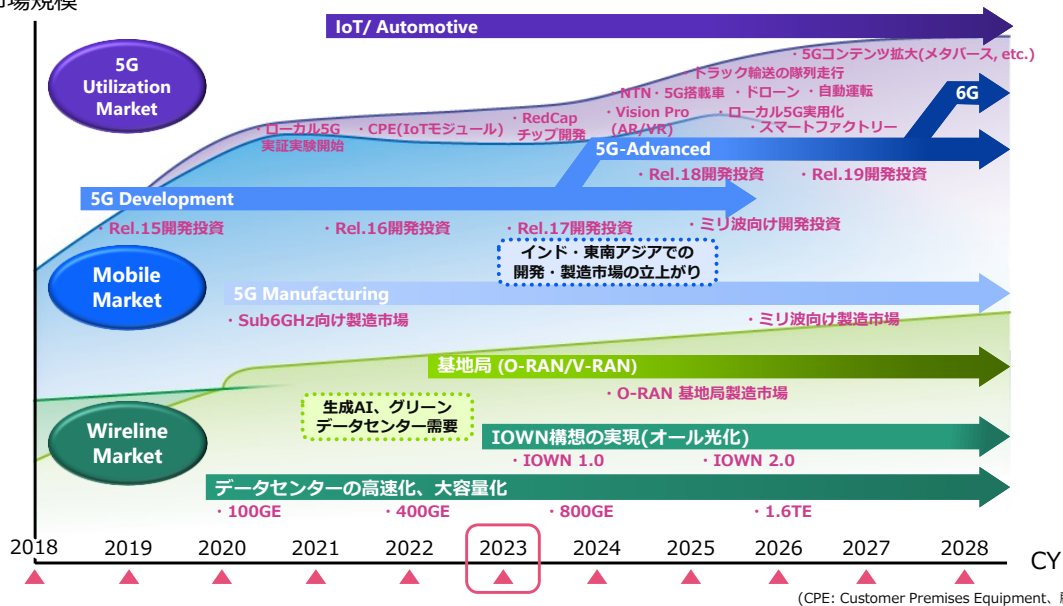
濱田 宏一

アンリツ株式会社  
代表取締役 社長

(ノート部記載なし)

## 4-1. 通信計測市場トレンドと事業機会

市場規模



(ノート部記載なし)

## 4-2. 通信計測の今期の業績ドライバ

### モバイルビジネス (5G/5G利活用市場)

- チップセットベンダーの車載用、RedCap用など、5G利活用への投資
- AR/VR向けデバイス開発への投資
- インド・東南アジアの5G開発・製造拠点への投資



RedCap開発用の  
ラジオコミュニケーション  
テストステーション MT8000A

### ネットワーク・インフラビジネス (光・デジタル市場)

- 生成AI、グリーンデータセンターの増加に伴う400GE、800GE向け需要増
- データセンターの増加に伴う光ネットワーク、海底ケーブルの増強



800G光トランシーバPAM4  
測定ソリューション  
MP2110A



海底ケーブルの検証用  
コヒーレントOTDR  
MW90010B

### エレクトロニクスビジネス

- 6G研究開発向けのVNA需要の拡大
- 政府系の業務用無線需要の拡大



6G研究開発向け  
広帯域ベクトルネットワークアナライザ  
ME7838シリーズ



各種無線設備のフィールド検証用  
多機能スペクトラムアナライザ  
MS2080A

(ノート部記載なし)

### 4-3. PQAおよび環境計測の今期の業績ドライバ

#### PQA

- 欧米の食肉市場における自動化、省人化需要の拡大
- インドでの医薬品市場の立上り



食肉市場向け  
デュアルエナジーセンサ搭載  
X線検査機 XR75



医薬品向け  
カプセルチェッカー

#### 環境計測

- EV・バッテリー向け試験装置の需要増



EVパワートレイン  
エミュレーション



バッテリー充放電  
試験システム

(ノート部記載なし)

4-4. サステナビリティ目標（SDGs）の進捗状況

|            | KPI                                   | GLP2023の目標                | 2022年度実績                        | 進捗 |
|------------|---------------------------------------|---------------------------|---------------------------------|----|
| E<br>環境    | ● 温室効果ガス*1<br>(Scope1+2)              | 2015年度比 23%削減             | 6.7%削減                          | △  |
|            | ● 温室効果ガス*1<br>(Scope3)                | 2018年度比 13%削減             | 21.8%削減                         | ◎  |
|            | ● 自家発電比率（PGRE 30*2）                   | 13%以上（2018年度電力消費量を基準）     | 7.2%                            | △  |
| S<br>社会    | ● 女性の活躍推進                             | 女性幹部職比率15%以上              | 10.5%（グローバル、2023年3月末）           | ○  |
|            | ● 高齢者活躍推進                             | 70歳までの雇用及び新処遇制度確立         | 70歳までの雇用及び新処遇制度制定               | ◎  |
|            | ● 障がい者雇用促進                            | 職域開発による法定雇用率2.3%達成        | 障がい者雇用率2.36%（2023年3月末）          | ◎  |
|            | ● サプライチェーンDDの強化                       | 3年累積10社以上                 | 6社実施（2年累計で12社）                  | ◎  |
|            | ● CSR調達に係るサプライヤーへの情報発信2回/年以上、教育1回/年以上 |                           | 情報発信3回、教育1回実施                   | ◎  |
| G<br>ガバナンス | ● 取締役会の多様性の推進                         | 社外取締役比率50%以上              | 社外取締役比率50%実現（10人中5人）            | ◎  |
|            | ● 海外子会社の内部統制構築                        | 全海外子会社が統制自己評価（CSA）の基準を満たす | 9割の項目で基準を満たす会社：87%<br>（項目数：181） | ○  |

\*1 温室効果ガスに関するGLP2023の目標値及び実績値に関しては、2022年1月に当社の子会社となった高砂製作所の数値は含みません。

\*2 PGREは、Private Generation of Renewable Energy（再エネ自家発電）の略であり、「30」は達成時期の2030年ごろと自家発電比率目標値30%程度を意味します。

（ノート部記載なし）



(ノート部記載なし)